

令和元年度国立大学図書館協会海外派遣事業報告

## ポーランドにおける日本文化研究環境に関する 現地調査及び国際カンファレンスでの報告

東京学芸大学 瀬川結美

2019.12.5 東京学芸大学 SD研修・海外派遣報告会

東京学芸大学附属図書館 1階セミナールーム



学芸大図書館キャラクター  
まなぶんぶん

## はじめに ～国立大学図書館協会 海外派遣事業とは～： 事業の目的

### 事業の目的

- ① 図書館における海外の先進的な事例を調査・研究し、わが国の学術環境の中でどのように展開していくかを検討する
- ② 国際連携の観点から、図書館活動に関連する国際会議へ参加し、日本の状況等について発表する

国立大学図書館協会 海外派遣事業 ウェブサイト

<https://www.janul.jp/ja/operations/overseas>

## はじめに ～国立大学図書館協会 海外派遣事業とは～： 事業の詳細

- 長期（2週間以上）と短期（1週間程度）がある
- 年末頃に募集、翌年3月末応募〆切、5月派遣者決定  
※令和元年度は3名採択、10月に全員の派遣完了
- 今後、報告書提出・大学図書館研究への投稿を行い、令和2年度国立大学図書館協会総会（6月）で発表予定

...令和2年度派遣は11月28日（金）に募集開始しました 3

# はじめに ～国立大学図書館協会 海外派遣事業とは～： 令和元年度の派遣者



派遣者	所属	時期	調査研究テーマ [主な派遣先]
瀬川結美 (短期)	東京学芸大学	6/26～ 7/4	ポーランドにおける日本文化研究環境に関する現地調査及び国際カンファレンスでの報告 [International conference "Collections - Encounters - Inspirations"、クラクフ国立博物館、ヤギェウオ大学、日本美術技術博物館]
佐藤亜紀 (短期)	北海道大学	8/31～ 9/7	オーストラリアの大学図書館におけるオープンサイエンス・研究データ管理の先行事例調査 [シドニー大学、ニューサウスウェールズ大学、メルボルン大学、モナシュ大学]
有馬良一 (短期)	神戸大学	10/7～ 11	シンガポールの高等教育機関附設図書館における学修支援：レファレンス業務・情報リテラシー教育を中心に [National University of Singapore、Nanyang Technological University、Singapore Polytechnic]

## 0. ポーランドへの渡航計画： [応募段階] 問題意識、課題設定、渡航先の決定

問題意識：日本のデジタルアーカイブの今後の方向性は？  
海外においてどれほどの利用が見込めるか？  
グローバルにリーチさせていく上で必要なことは？

⇒日本文化教育・研究環境、デジタルアーカイブへの反響を  
調査することを課題とする

渡航先：日本文化に関心が高く、派遣実績のない国 ...？

## 0. ポーランドへの渡航計画： ポーランドについて

- 日本語教育機関：57 教師数：222人 学習者数：4416人
- 学習者は高等教育が2295人で最も多く、高い水準 \*2015調査結果
- 1919年にワルシャワ大学で日本語講座が開設されたのが始まり  
同大学、アダム・ミツキエヴィッチ大学、ヤギェウォ大学が、  
中心的役割を担う
- 19世紀末～20世紀初頭に日本文化が流行、伝統文化や文学のほか、  
近年はマンガやアニメ、映画へ関心も集め、若年者層の学習者も  
増えている

(国際交流基金 日本語教育 国・地域別情報 2017年度\*1) <sup>6</sup>

## 0. ポーランドへの渡航計画： ポーランドについて

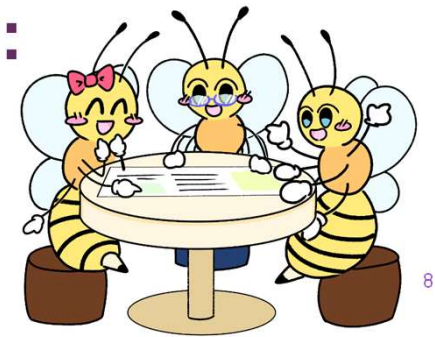
- クラクフに日本に関する独立したミュージアムがある  
「日本美術技術博物館：Manggha」
- 1999にクラクフでEAJRS（日本資料専門家欧州協会年次大会）開催
- デジタルアーカイブの取り組みは、National LibraryやNational Museum、大学図書館等が取り組んでいるようである
- 2019年は日本・ポーランド国交100周年を記念する年
- 国立大学図書館協会 海外派遣事業での派遣実績は無く、近年の日本語・日本文化教育・研究に関する報告も少ない

⇒ポーランドに決定

## 0・ポーランドへの渡航計画： [応募段階] 具体的な調査計画の検討

Dr. Eva Kamińska（ヤギェウォ大学 異文化研究所）に相談  
具体的な調査計画を検討

- 6月末クラクフで日本美術・工芸に関する国際カンファレンスがあり、参加・発表をご提案いただいた⇒これを計画のメインに
- クラクフにはヤギェウォ大学、日本美術技術博物館：Mangghaがあり、併せて訪問し、調査を行う
- 多くの意見を集めるため、アンケートを実施する





## 0. ポーランドへの渡航計画： 実施した準備作業

1. カンファレンスへの応募（Abstract作成・提出）、発表準備
2. 各訪問先への申し入れ、アポイント、事前調査
3. 国内のデジタルアーカイブについて事前調査  
（最新動向の確認\*2、国内ウェブサイトチェック、機関訪問）
4. アンケート作成

とりわけ、3. において、日本のデジタルアーカイブの現状と問題点を強く認識することになった

## 0. ポーランドへの渡航計画： 渡航前に把握できたこと ー喜びと哀しみー

発表・交流のため、日本のデジタルアーカイブ調査を行ったところ...

- 豊富かつ魅力ある多様なコンテンツが発信されている！
- 日本のデジタルアーカイブの総体を把握するのは難しい...
  - ※過去にNDLやJANULにより調査は行われている
  - ※私的なポータルはあるが... (e.g. 「アンドラDigital Archive Link」 andla.jp)
- 各機関単位でも、アクセス先が分かりづらい...
- 英語対応ができていない、或いは不十分...
- リポジトリのインターフェースはユーザーに優しいか？

思いのほか、  
情報集めに苦勞...



## 0. ポーランドへの渡航計画： 渡航前に把握できたこと —問題の再認識—

つまり、、、

色々と多種多様に発信はするが、知り、アクセスすることは難しい

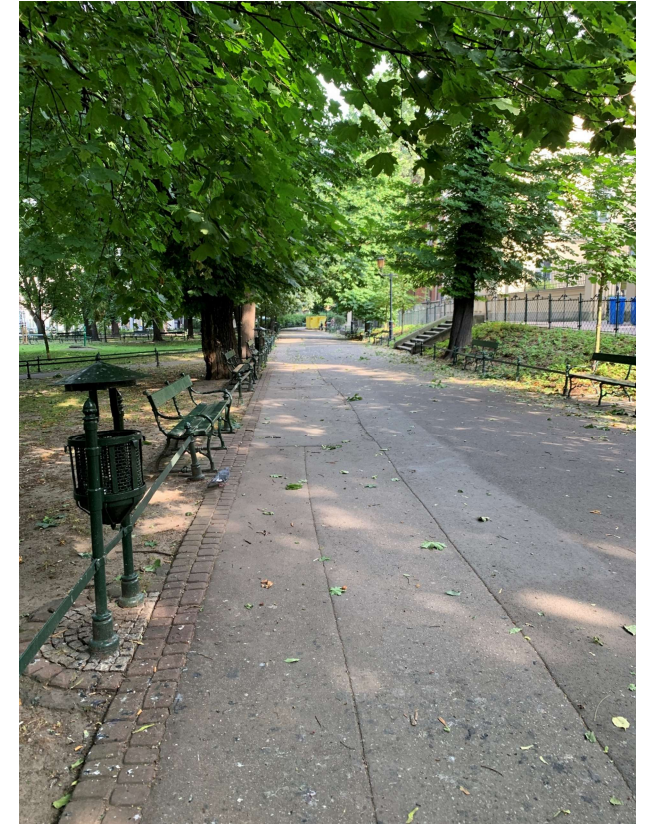
⇒発信しているが、無いと思われて、利用されないのでは？

⇒海外だけでなく、国内も同じ状況なのでは？

デジタルアーカイブは90年代に構築が始まり、今まさに転換期！

いかに対処していくか考える大事なタイミング？！

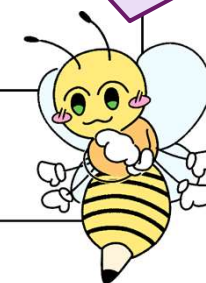
6/26 (水) いよいよ現地入り...  
ポーランド クラクフの街並み



# ポーランドへの派遣 全体スケジュール

Date	訪問先
6/26 (水)	ポーランド クラクフ到着
6/27 (木) ~29 (土)	国際カンファレンス “Collections - Encounters - Inspirations” *27日午後 to 発表
7/1 (月)	ヤギェウォ大学 文献学部 東洋学研究所 日本・中国学科、 同図書室訪問
7/2 (火)	午前：日本美術技術博物館：Manggha訪問 午後：ヤギェウォ大学 異文化研究所 訪問
7/3 (水), 4 (木)	日本に帰国

6/30 (日) は  
休日にして情報整理  
をしました





# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS” 概要

主催：

- Jagiellonian University

Faculty of International and Political Studies,  
Institute of Intercultural Studies

- The National Museum in Krakow

- The Krakow Branch of Polish Institute of World Art Studies

独立の回復とポーランドの国家権力の再建100周年記念行事  
(Polska niepodległa <https://polskaniepodlegla.pl/>) に認定

在ポーランド日本大使館協賛

Dr. Eva Kaminskiは、  
カンファレンス開催における  
責任者でもいらっしゃいました



<https://europe-japan2019.confer.uj.edu.pl/general> 14

# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS” 概要

- 大学、博物館、研究・文化団体、コレクター、および日本の芸術文化に関わるアーティスト間の協力を促進する
- 日本美術や工芸品のコレクションやコレクターの役割、日本美術の受容、日本と中東欧の交流を探求する学者間の国際協力ネットワークの構築を目指す

⇒ ネットワークミーティングの開催（27日AM）

⇒ 各種講演、発表を通しての研究交流



# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS”

## プログラム (ミーティング×1、基調講演×3、発表×22)

6/27 (木)	AM	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 1st Meeting of the Cooperation Network for Japanese art and crafts in Central and Eastern Europe</li> <li>▪ Visiting the Exhibition</li> </ul>	The Feliks Jasiński Szolayski House ( <a href="https://mnk.pl/branch/the-szolayski-house">https://mnk.pl/branch/the-szolayski-house</a> )
	PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Opening speech(1) Keynote speech (1)</li> <li>▪ Presentation(4)</li> <li>▪ Dinner (Dom Józefa Mehoffera)</li> </ul>	The National Museum in Kraków ( <a href="https://mnk.pl/branch/main-building">https://mnk.pl/branch/main-building</a> )
6/28 (金)	AM	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Presentation(6)</li> <li>▪ Art visit (Leonardo da Vinci, Lady with Ermine)</li> </ul>	<p>ここで発表！ Presentationとしては 最初の登壇でした</p>
	PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Presentation(4) ▪ Visiting the Exhibition</li> </ul>	
6/29 (土)	AM	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Keynote speech(1) ▪ Presentation(4)</li> </ul>	
	PM	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ Keynote speech(1) ▪ Presentation(4)</li> <li>▪ Closing remarks</li> </ul>	

※基本的に各日開催時間は9：00～18：00でした



# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS”

## 1st Meeting of the Cooperation Network for Japanese art and crafts in Central and Eastern Europe

中欧・東欧における日本の美術工芸関係  
研究者の国際協力ネットワーク構築を目指す

⇒ Ms. Beata Romanowicz（クラクフ国立博物館）による進行

Dr. Eva Kaminski（ヤギェウォ大学）によるコンセプトスピーチ、  
参加者自己紹介、ネットワーク名称の検討が行われた

⇒カンファレンス後、MLが運用開始した



# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS” どのような話題が上がっていたか？

- 研究プロジェクト、ワークショップ報告
- 展覧会実施報告
- 所蔵コレクション紹介
- コレクション構築史
- コレクション構築に関わった人物史
- 資料保存・修復

＊対象資料は浮世絵、絵画、写真、工芸品、歴史的文物（はさみ箱等）、庭園、演劇、演芸、文化雑誌、...と多岐に渡った

※詳しくはウェブサイトおよび後日刊行の刊行物をご参照ください




# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS” 行った発表内容

## “Trends and Perspectives of Digital Collections in Japan”

- 日本におけるデジタルアーカイブの最新動向
- 注目されるコンテンツの紹介
- 今後の課題
- オンラインアンケートのお願い



1. Developing portals (continued)




Database of Pre-Modern Japanese Works  
(National Institute of Japanese Literature)  
February 2019 Released

- This database aims to build a portal of Japanese pre-modern texts in the world.
- Many Japanese art based on literature, so art researcher could use illustrations of books as research materials.
- This database provides "featured content" and image tags to help you find resources in addition to keyword search.

<https://kotenseki.nijl.ac.jp/?ln=en>

3. New applications (continued)



Displayed 250 random thumbnails  
Select one, show its content

Digital exhibition  
"Kunshujo"  
University of Tokyo

<https://kunshujo.di.it.u-tokyo.ac.jp/mosaic.html>

\*美術・工芸分野の研究者が関心を持つ活用可能性ある内容を心がけた 19

# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS” 発表に対する反応

- 日本のデジタルアーカイブを既知の方はあまりいなかった  
発表は新しい情報提供として広く好評を得た
- 「どこにアクセスすれば、こういったものを見られるか？」という質問多数...網羅したポータルが示せず、回答に苦慮
- 日本の文献は入手に手間がかかり高価、オンラインでの提供が広がることはありがたい...海外配信開始したばかりのNDLデジタル送信サービスも好評
- 文献が不足している、研究したいテーマについての研究成果や研究者が見つからず困っているが何とかならないか？

# 1. “COLLECTIONS - ENCOUNTERS - INSPIRATIONS” カンファレンスを振り返って...

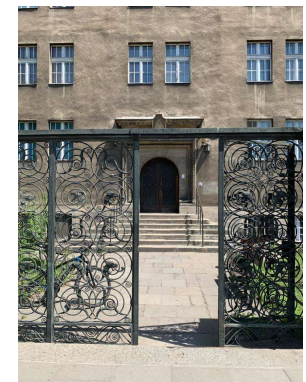
- 参加者は全体でおおよそ40名、中欧・東欧各国から参加
  - 日本研究者は単一国内では少数派、共同研究者を探している
  - 日本留学経験がある方が多かった
- ⇒多くの日本資料（美術品、歴史的文物他）を抱え、決して恵まれた環境とは言い難い中で調査研究活動を進めている...
- ⇒OAやデジタルアーカイブ発信を強化することは、研究資料面だけでなく、共同研究者発見を支援することでもある！

## 2. ヤギェウォ大学

文献学部 東洋学研究所 日本・中国学科 ～上級講師 坂本一恵先生を訪問～

Institute of Oriental Studies of the Jagiellonian University  
[http://www.io.filg.uj.edu.pl/en\\_GB/start](http://www.io.filg.uj.edu.pl/en_GB/start)

- ヤギェウォ大学はクラクフにあるポーランド最古の大学
- 日本学専攻は学士過程が3年、修士課程が2年
- 各過程修了時に論文提出・審査あり。日本語学習と研究両方を行い、研究テーマは概ね2年次から検討し始める
- ポーランド語で論文を執筆するが、日本語文献はほとんど読まなければならない
- 日本語学習進度は早く、ハイレベル



## 2. ヤギエウォ大学

### 博士論文テーマ（～2012） ※日本学専攻に限らない結果です

- Hojo no umi (Płodne morze). Próba analizy i zdefiniowania kanonu estetyczno-etycznego w tetralogii Yukio Mishimy (1925-1970) [2012]
- Opowiadać i być opowiadaną : kobieta w twórczości Higuchi Ichiyō (1872-1896) [2011]
- Akira Kurosawa : artysta pogranicza [2010]
- Brak absolutu. Pojęcia dobra i zła w japońskiej popkulturze [2009]
- Estetyczne aspekty japońskiej przestrzeni miejskiej [2009]
- Elementy religijne w koncepcjach samorealizacji Bushido [2009]

(ヤギエウォ大学デジタルライブラリーより\*3)



## 2. ヤギェウォ大学

### 文献学部 東洋学研究所 図書室 ～ANIESZKA HEUCHERTさんを訪問～

- 図書室は1919年に設立
- 日本関係書籍は1万1000冊ほど（半分以上が日本語）※2017年数値  
※図書室には中国語書籍も一緒に配架している
- 所蔵書籍の多くは寄付による 寄付は資金寄付と教材寄付がある
- 寄付金の減少に伴い資料購入が厳しくなっている
- 日本語教材、ポーランド語資料購入が優先となり、日本語書籍を購入する余裕がない
- カード目録が基本だが、WorldCatに登録を開始している

※大学OPACにヒットする日本語書籍は大学全体で289件



## 2. ヤギェウオ大学 文献学科 文献学部 東洋学研究所 図書室

The screenshot shows the JU Libraries Online Catalogue interface. The header includes the university name and navigation links. A banner at the top indicates a new catalog version. The main search area shows a search for 'Wirusologia' with 1614788 results. Two results are displayed:

- Wirusologia / redakcja naukowa Anna Goździcka-Józefiak ; autorzy Jakub Barylski, Justyna Broniarczyk, Julia Durzyńska, Anna Goździcka-Józefiak, Oskar Musidlak, Robert Nawrot, Elżbieta Poręba, Alicja Warowicka, Martyna Węglewska.**  
Publication: Warszawa : Wydawnictwo Naukowe PWN, 2019.  
Edition: Wydanie I.  
3 of the 4 copies are available  
BJ - Lectorium (1 available)  
BJ - Egz. Archiwalny - Magazyn (0 of 1 available)  
BIBL. NAUK PRZYRODNICZYCH (2 available)  
Add To Cart
- Ochrona środowiska dla inżynierów / redakcja naukowa Jacek Krystek ; autorzy: Grzegorz Wielgosiński, Tadeusz Wszolek, Anna Karczewska, Małgorzata Wojska, Korneliusz Miśkisch, Czesława Rosik-Dulewska, Barbara Surowska, Piotr Korzeniowski, Jacek Krystek, Tomasz Poskrobko.**  
Publication: Warszawa : Wydawnictwo Naukowe PWN SA, 2018.  
Edition: Wydanie I.  
Version of Resource: Spis treści: [http://www.biblos.pk.edu.pl/ST/2018/12/100000315575/100000315575\\_Krystek\\_OchronaSrodowiska.pdf](http://www.biblos.pk.edu.pl/ST/2018/12/100000315575/100000315575_Krystek_OchronaSrodowiska.pdf)  
4 of the 5 copies are available  
BJ - Lectorium (1 available)  
BJ - Egz. Archiwalny - Magazyn (0 of 1 available)  
WYDZIAŁ CHEMII (1 available)

■ 書籍は受入れ順に並べている。日本語による資料と中国語による資料も特に分けずに配架している。

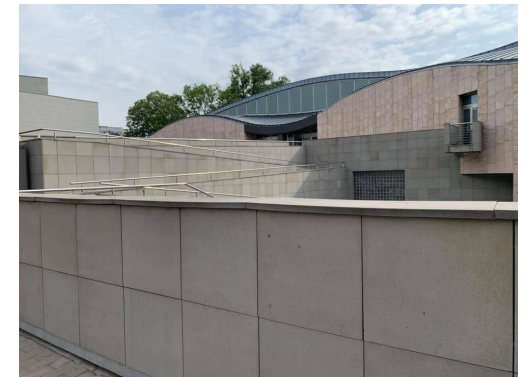
■ 書架とは別に教員が授業で使用するために用意した書籍を収納するキャビネットが別途用意されている。

### ▲大学図書館全体のOPAC

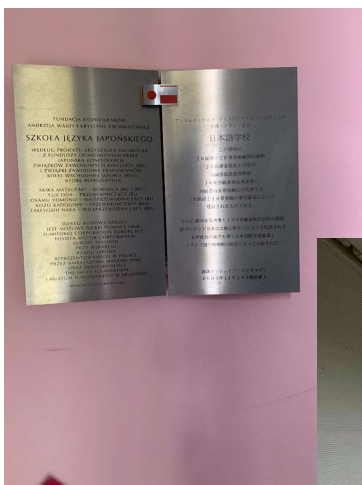
<https://chamo.bj.uj.edu.pl/uj/search/query?locale=en&theme=system>

### 3. 日本美術技術博物館：MANGGHA 概要

- ポーランドで唯一日本文化を紹介することを主目的とした国立文化機関
- 1994年にアンジェイ・ワイダ氏（映画監督）とクリスティーナ・ザフファトヴィッチ氏の提唱により設立
- 開館後10年はThe National Museum in Krakowの分館、京都・クラクフ基金の拠点だった
- 2005年に独立した国立文化機関となり、2007年から博物館活動を開始
- フェリックス・ヤシェンスキ氏が収集した極東美術コレクションが2009年に寄託（Manggha はヤシェンスキ氏の愛称）
- 日本に関するすべてを対象として活動
- 流線形の建物は磯崎新氏が設計、ヴィスワ川を模している



### 3. 日本美術技術博物館：MANGGHA 様々な施設



▲日本語学校



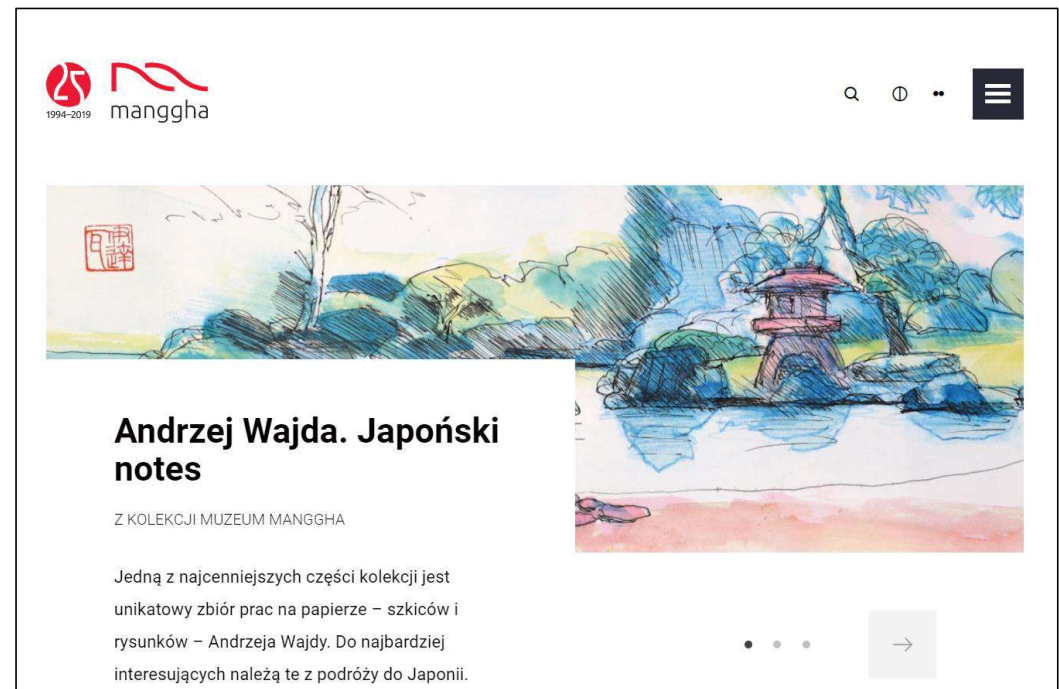
▲図書室



▲茶室、茶会開催も  
周辺には竹林が設けられている

### 3. 日本美術技術博物館：MANGGHA 主な活動

- 主に現代の文化を対象としている
- 常設展はなく、3ヶ月ごとに展示替え、企画展を複数併設
- 雅楽などの演奏会、ワークショップも積極的に開催
- 2019年7月に東京文化財研究所と文化財保存事業を開催
- 学位取得を目指しながらスタッフとして関わる学生も多数いる



<https://manggha.pl/>

### 3. 日本美術技術博物館：MANGGHA PRESENTATIONとMEETING

日本のデジタルアーカイブを紹介する発表を行い、  
館内見学、MEETINGを行った

- 発表後、「どこにアクセスすれば、こういったものを見られるか？」「英語対応は今後どうなるか」といい質問をいただいた
- 活動スタンスとして、日本に関する様々な活動を行うが、日本のものをそのまま示すのではなく、ポーランドから見た日本の魅力を表現することを目指していると伺い、印象に残った

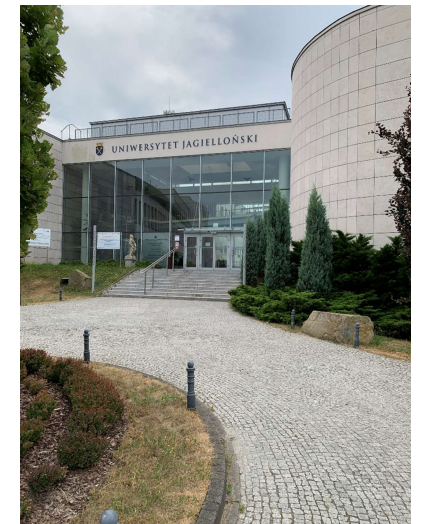


## 4. ヤギェウォ大学 異文化研究所 DR. EVA KAMINSKI



最後に異文化研究所にある  
Dr. Eva Kaminskiの研究室に  
お邪魔しました

Institute of Intercultural Studies of the  
Jagiellonian University  
<http://www.en.ism.uj.edu.pl/>



## 5. オンラインアンケート

- 回答者数：19名（研究者、学生、学芸員、コンサバター）  
※多くはないが、幅広い方から回答いただけた
- 訪問時は大学は休業期間中だったため、冬学期開始後の協力を依頼した
- 11月でようやく回答完了、集計中

⇒集計結果は、大学図書館研究の報告原稿でご報告します...

Please access Digital Collection in Japan.  
Please answer the questionnaire.

Online Questionnaire

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~segawa/da-questionnaire2019.html>



Please access  
URL or QR code



- This questionnaire aims to find out problems of Japanese digital collections in Japan.
- Summary of questionnaire results will be published and shared to improve Japanese digital collections in Japan.
- Your answer leads to improvement of Digital collection in Japan.

## 6. まとめ

### 海外派遣を経験して見えたこと、今後の課題（1）

1. ポーランド、中欧・東欧における日本研究・教育
  - ...幅広い所蔵品、そして幅広い興味、関心がある
  - ...文献は不足しており、研究協力者を広く求めたい
  - ...日本研究分野では、デジタルアーカイブは十分浸透していない⇒OAやデジタルアーカイブを今後いかに展開していくか？

\*世界の学術研究における日本離れは、今後日本からの情報発信が一つの鍵を握る

\*情報発信は、研究・教育パートナーの構築にもつながる



## 6. まとめ

### 海外派遣を経験して見えたこと、今後の課題（2）

#### 2. 日本のデジタルアーカイブの問題点と課題

...どこにあるかわからない

⇒ジャパンサーチへ参加、組織・主題別ポータル構築を目指しては？

...使いづらさ

⇒更新を機にユーザー目線を踏まえた見直しを...

グローバルなユーザビリティを考える \*ページ翻訳への対応しやすさも重要

\*国でまとめることは発見性を高める。マスタデータは扱いつらくもあるため、小さな単位のポータルも重要。

\*他者の紹介により生まれる誤り、欠落がある。フラットな情報提供のためにも、ユーザーが情報を一望できる環境構築が必要。

## 6. まとめ

### 海外派遣を経験して得られたこと、反省点

#### 得られたこと

- 国を代表して発表・交流する経験
- グローバルな視点を持ちサービスデザインする意識  
⇒海外という「ハードル」を越えるための一歩を踏み出せた

#### 反省点

- アンケート実施の難しさ
- 語学力不足 ⇒学習意欲につながった

さいごに

派遣にあたって、ご支援くださったすべての方に  
心より感謝申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。



## REFERENCE

1. 日本語教育 国・地域別情報 2017年度（国際交流基金）  
<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/area/country/2017/poland.html>
2. 大学図書館におけるデジタルアーカイブの利活用に向けて  
（国立大学図書館協会 学術資料整備委員会デジタルアーカイブWG）  
[https://www.janul.jp/sites/default/files/2019-07/sr\\_dawg\\_report\\_201906.pdf](https://www.janul.jp/sites/default/files/2019-07/sr_dawg_report_201906.pdf)
3. Jagiellonian Digital Library  
<https://jbc.bj.uj.edu.pl/dlibra?action=ChangeLanguageAction&language=en>
4. Agnieszka Kluczevska-Wójcik & Jerzy Malinowski (Eds.) (2012). *ART OF JAPAN, JAPANISMS AND POLISH-JAPANESE ART RELATIONS*. Toruń Polish Institute of World Art Studies :Tako Pub. House ※過去のカンファレンスペーパーの例